

定時制午前部教育目標		重点目標（中長期的目標）		総合評価		
三部からなる定時制の特色と単位制の趣旨とを活かし、生徒・保護者のニーズに応える教育を行う。		単位制の一層の推進・充実を図るとともに、生徒が時間を有効に活用しながら、基礎学力と基本的生活習慣とを身につけ、活力ある学校生活を送ることができるようにする。		三部からなる単位制への転換の年として、職員の協力の下、システムの構築に全力を挙げることはできた。反面、新体制が生徒のニーズにかなったものであるかをはじめとして、掲げた教育目標に照らした場合、改善を要する問題は山積している。		
		今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
		1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実		新体制に移行できたことはよいが、生徒に目を向けた教育活動の面で、今後解決すべき課題は多い。	B	三部制への転換に当たって、大きな混乱はなかったが、中・長期的ビジョンに関して職員全体で議論を重ね、コンセンサスを得るような時間と場を確保することが急務である。
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教	教育課程	開講科目の充実	様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒の希望がかなえられるような講座の設定、および編成ができたか。	可能な限り希望に添う編成に努めた。多くの公開(社会人聴講)講座を新設できた。	A	様々な制約の中で、困難を伴うが、個に応じた編成に努めたい。新年度も公開講座を計画している。
	学習指導	基礎・基本の定着	可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。生徒による授業評価を行い、活用できたか。	国・数・英の3教科で計19講座の習熟度別授業が展開でき、基礎学力の定着と伸長に努められた。また個別の指導や面談などを行うよう努めたが、時間的な制約が厳しく、充実には至らなかった。	B	保護者懇談会については、2期制移行に伴い、実施時期と方法について検討し、新年度の行事予定に組み込んだ。個別指導については、今後とも課題として取り組みたい。
		個に即した指導	必要とする学力を個に即して着ける指導ができたか。			
育	生徒指導	ルール・マナーに対する意識の向上	生徒会と連携できたか。生徒・保護者から信頼される指導はできたか。	生徒会と協力した掲示活動等で、生徒に自主的な意識が芽生えた。生徒と担任の信頼関係により保護者とも信頼関係が構築できた。	B	地域への活動など、視点を変えた取り組みで、生徒の意識向上を図る。
	不登校生徒などへの対応	情報を共有して支援できたか。保護者との連携は強化できたか。外部専門家などと連携できたか。	ワークショップや連絡会を通じて、生徒の具体的な様子を職員間で共有できた。相談室、保健室では、外部専門家と連携して、ハローワーク訪問や医療機関の紹介相談窓口など、個々の生徒に対する支援ができたが、「医療的」「長期的」事案への支援と連携には、必要性と限界が逼迫している。	A	全職員による情報共有と協力体制。引き続き、外部専門家との連携。	
活	暴力やいじめの防止	年次会・職員相互で連携できたか。生徒・保護者との信頼関係は構築できたか。人権感覚が向上したか。	係、年次、担任で連携した指導が出来た。いじめなどの問題には、把握と防止のための具体策が課題である。体験型の人権教育で、生徒が人権感覚を身につけることができた。	B	いじめ問題に対する把握と防止の具体策の検討と実行。	
	喫煙や薬物防止	校内外の巡視および啓蒙活動はできたか。	新入生対象の喫煙防止講話では、アンケート結果から禁煙への意識を高めることができた。継続した巡視活動ができた。	A	地域への活動など、視点を変えた取り組みで、生徒の意識向上を図る。	
動	交通安全指導	原付通学許可者への講習ができたか。	交番の協力で、実技と講話の講習会ができた。	B	教習所など、外部専門機関の活用と、自転車ルールへの取り組みも計画していきたい。	
	進路指導	職業観・勤労観の育成 進路指導の充実・強化 個別指導の重視	生徒に正しい職業観を育て勤労の意味を学ばせることができたか。免許や資格に関する情報を与え、取得するにはどうするのか調べさせる指導ができたか。 定時制ハンドブック(進路編)を使い、LHRや年次別ガイダンスで指導できたか。進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。 個人面談・保護者懇談の機会を多く設けて、生徒自身の個性と能力を生徒に自覚させるよう指導できたか。	全体にむけての進路講話、職業体験型ガイダンスは、成果があがった。講師選択、年次別ガイダンスに課題が残る。	B	「定時制ハンドブック」をさらに活用したい。就職者の早期啓蒙のため、会社訪問に結びつくまで個々の指導を充実させたい。
生徒会活動	くれき野祭の充実	それぞれの役割分担の中で、多くの生徒が主体的に取り組めたか。	くれき野祭では新企画を考え活動した。主体的に取り組んだ生徒も増え、成果をあげることができた。全日制が閉課程になるため、平成20年度の文化祭の日程・内容を検討する。また、各委員会活動は焼き芋会や大庭駅掃除などの新しい活動を行うことができた。さらに、各委員会で積極的に取り組める活動を考えていきたい。	B	文化祭は生徒が主役であるので生徒の声を大切にし、4パートで連携し、日程・内容を考えたい。また、中学時代、生徒会活動の経験が少ない生徒が多いため、生徒と相談をしながら、生徒のできる範囲で新しい企画を考え、委員会活動を行っていきたい。	
	委員会活動の充実	各行事や活動計画に向けて、積極的に取り組めたか。				
学	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実と社会人聴講生の受け入れ	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。	5月に授業参観実施。社会人向けの6講座(うち午後3)を新設し、聴講生が在校生とともに学習を行っており、好評である。また7月に松本市との共催により、もの作り講座(2講座)も開設、好評であった。	A	来年度も計画したい。
	校の運営	組織の充実	「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。	「内規集」は、年度内に改訂し、新年度から施行する予定である。「定時制ハンドブック」は、転換後の実態を踏まえ、改訂した。	B	多部制への転換による新体制移行の中、新しい学校のあり方について職員間で検討・議論する場が設定できなかった。現状では会議の実施自体に大きな時間的制約がある。
		校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。			
営	研修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。	月1度のワークショップ(生徒の情報交換を含む)を持つよう努めるとともに、8月には特別支援教育に関する定時制全職員参加の研修会を実施した。授業公開は、校外・校内を含めて実施できた。	B	ワークショップを月一度のペースでは行えなかった。昼間定時制時代に大きな意義のあった生徒理解の機会が、物理的要因によって失われつつある。ソフト面での重要な課題である。学習指導や授業法の研修は教科を超えた課題として今後も研究が必要である。
	授業法の研修	学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。				